

東北 VALUE SIGHT 山形



NPO法人「論語に学ぶ会やまがた」 副理事長
佐藤 百恵 (さとう・ももえ)

1975年、山形市生まれ。
山形西高等学校、関東学院大学経済学部経営学科卒業。
東京のIT系ベンチャー企業に就職し、3年間勤務後帰郷。
山形で再就職後、バセドウ病が発覚。退職し、一時治療に専念。現在は完治。
体調を整えながら派遣社員で社会復帰し、電力会社勤務、日経新聞記者アシスタントを経て現職。
NPO法人論語に学ぶ会やまがた
〒990-0832 山形市城西町1-7-19
山形県NPO支援センター 2F
TEL 023-673-9278・FAX 023-673-9289
<http://rongoyamagata.jimdo.com/>

「可もなく不可もなし」「一を聞いて十を知る」「温故知新」「過ぎたるはなお及ばざるがごとし」等々、誰もが一度は耳にして口にすることがあるこれらの言葉は、すべて論語から生まれたものである。NPO法人「論語に学ぶ会やまがた」(山形市)は、なじみが薄いと思われがちな論語を易しく学ぶことで、“生きる力”を育むべく日々奮戦している。

論語ブーム

今、出版界では静かな『論語』ブームが起きている。ビジネス、趣味、子育て等多方面における月刊誌で、頻繁に『論語』が取り上げられ、ハードカバー・文庫の書籍も次々に出ている。とりわけ注目されるのは、子供向けの書籍が多く出版され、ある書籍はベストセラーとなりシリーズ化されたことだ。絵本やマンガなどもあり、テレビ番組では『論語』の章句が歌にもなった。

『論語』は、2500年前に中国に生きた『孔子』の教えを、弟子たちが後世に残すために編さんしたものだ。『孔子』の教えの根底にあるのは“仁”、それは思いやりの心と言える。日本でも歴史に名を残す人物たちが学び、江戸時代には寺子屋で多くの子供たちが学んだ。

ここにきて『論語』ブームが起こっていること背景には何があるのか。それは複雑化した現代社会において、『論語』に何かを見出し、求めている機運があるからと思われる。今回私たちがNPOを立ち上げて、子供たちが『論語』に触れる場を創ろうとしていることも同じ思いであるが、一時的なブームで終わらず、浸透するよう願っている。

NPOを立ち上げた経緯

今回このNPOを立ち上げたメンバーは、数年前から「論語に学ぶ会」で月に一度新潟から講師を招き、論語に留まらず多方面に渡る講義を受け、“論語読みの論語知らず”に陥らないよう、『論語』から得た教訓を実生活に活かすことを目的として学んでいる。

そこで学ぶ中、学童保育のように放課後の小学生を対象に、学校の予習・復習・宿題をみながら『論語』にも触れてもらう場を創ろうという話が持ち上がったのが約2年前のことだ。かつて『孔子』のもとで弟子たちが学んだように、集まった子供たちが

『論語』の精神 “仁”を活かした 子供たちの学びの場、 コミュニティーの場創りを目指して

切磋琢磨する寺子屋のような場をイメージした。未来を担う子供たちが成長の過程で迷い悩む時には、『論語』の精神が少しでも心の片隅にあり、より良い人生を歩むための道しるべとなることを願っての発案である。

現代社会には様々な問題が入り組み、解決すべき課題も山積している。特に昨年の大震災後は人々の社会に対する目線はより鋭く真剣になり、世の中のあらゆる分野で憤りを感じたり、不安をつのらせたりしている方々が多いだろう。互いに支え合い、助け合って生きていく思いやりの心と、自ら考え判断し、行動に移して道を切り開いていく強い心は、混沌の今の時代にこそ必要とされるのではないだろうか。その両面を『論語』は論し育ててくれるものであると思う。

活動を開始したものの…

約2年前に今回の案が出てから実現するための話し合いを幾度も重ね、紆余曲折を経てNPOを設立し、今年4月に「童子塾」の名称で放課後の小学生が集う場を開設した。告知活動に奔走し、体験会には何組かの親子にご参加いただいたが、開塾当日に小学生は残念ながら集まらなかった。

これまで様々な機会にこの構想を周囲に話すと、大変良いことだと応援の声を多くいただいた。NPO設立準備に入ってから新聞記事でも何度か取り上げられ、他のメディアでも紹介された。セミナーや講演会にも講師として呼んでいただき、参加者からは賛同の声を沢山頂いた。

しかし、肝心の子供を預ける親御さんにはこちらが考えるほどには私たちの想いは響かなかったようだ。チラシでは『論語』の概要などを解説はしたが、「童子塾」のことがよく理解されなかったと思われる。そして何よりも問題だったのは、私たちの塾活動の実績がないことから、「童子塾」への信頼が得られていないことであった。この信頼を得て、私たちの活動を理解していただく為に、私たちの目指していることを分かりやすく伝え、地道な活動を続けて、その姿を見ていただくしかないと感じてきた。

現在の取り組み

以上の経過を経て、今私たちは「童子塾」を核としながら、老若男女問わずより多くの方々に集まっていたらいいようなコミュニティーの場創りを目指している。「童子塾」の前の時間に大人が集える「論



「ろんごでごろ〜ん☆親子カフェ」の光景。
カードも使いゲーム感覚で楽しんだ。

語サロン」を開設し、大人と子供が触れ合える時間帯を設けた。最近では、元教職員や大学教授からもご指導をいただきながら、内容の充実を図っている。

『論語』の難しいイメージを一掃して親しみやすいものになるよう工夫をし、「親子カフェ」や「お母さんの絵本作り」や「女子会」などのイベントも行っている。「求職者支援セミナー」も企画した。会員メンバーで、『論語』を山形弁に翻訳した「ふるさと論語」作りにも着手している。

このように固定観念にとらわれず、柔軟に楽しく『論語』に触れてもらう場、コミュニティーの場を今後も増やしていきたい。そして、参加者にはその場を通して生きていく上での大切な何かを、少しでも感じ取っていただければ幸いである。

10年・20年後を見つめて

昨年「特定非営利活動促進法の一部を改正する法律」が成立し、今年4月1日に施行された。地道な活動を続け、いずれはより信頼性が高く、税制上の優遇措置もある認定NPO法人を目指し、会員数を増やして多くの方々からのご支援を頂けるように、体制を整えていきたい。

夏休みには、親御さんが安心して子どもを預けて働けるようにと、山形市教育委員会からの後援もいただき「夏休み☆おあずかり教室」を計画した。村山総合支庁の観光振興室との共同での企画も生まれている。地域貢献型のファンドには、福島から避難してきている親子と山形の親子が交流できる、芋煮会イベントを申請した。

『論語』の里仁第四に“子曰わく、徳は孤ならず、必ず隣あり”とある。私たち自身が『論語』からの学びを一つ一つ体現して10年20年と活動を続け、共に学んだ子供たちが成長して様々な分野で活躍し、きらきらと輝く姿を見るのが私たちの夢である。